（廿二日夕刊）

# 磐城新聞

休刊 大祭 第一 第三日曜
定價（壹枚二錢、五十錢、郵稅十錢）
廣告料（二行五錢指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人 蓮沼龍輔
福島縣平町田町廿六番地
發行所 磐城新聞社
電話五四番

（大正十年四月二十二日第三種郵便物認可）　昭和三年九月二十三日　磐城新聞（日曜日）　第二千三百四十八號　（一）

## 呂曜の午後

佐藤 清長

策そうとすれば
策そうとあせるほど
自然の長閑さが 渦た俺の全身に
湧上つてくるのをどうすることもできない
眼をとじてぐつと手をのばしたが
それとてもなにもならない
町の街道を走つてゐる自動車が時たまもかすごい警笛を
道行く人に浴せ掛けてゐるのだらう
靜かな公園 樹々にこだまして
空から地上に鍛の様なす
拙々と思索してゐる自分
凡てが慘めな人の世の象徴のしら
眼を上げて空を見ると眞綿の様な
眞白い雲が忠魂碑の眞上に密集してゐる
而しその儘かな切目から
眞白いオロラの光を曼筋も幾筋も
地上に投げつけてゐる
……それとても瞬間二度
眼を空い投たとき眞白な雲は——いつか眞黒になつて……
空から地上に鍛の様なす
じが後から後から
凡てが慘めな人の世の象徴のしら
さ、う、ち
外山 昇
僕のさゝ舟
走る
嘘か小川に
かう〳〵と
走る
走つて
走つて
土橋の
とんねる
く——ぐつた
ひてり草
れて〳〵
れてんとさん
てつた
笑ひ〳〵
ひてり草の花
笑つた
ひら〳〵
蝶さん
やつて來たよ

## 青沼醫院

平町磐城跡
電話四〇三番

## ユダヤ民族研究の必要を絶叫す（下）

蓬田光匡

勞働會議の如きも然りである、これ即ちプロトコール、發射せる毒瓦斯が日本の勞働條件とは同一率を以て論ずることは不可能である、假りに炭礦に例を採るも米國の如き機械により採炭し得る炭礦と我が日本にては常磐地方の如く手掘りにたよらざれば採炭し得ざる炭礦とは之を同一なる取扱ひを爲し得ざるは當然である、然るにわが日本における輕薄者流は口を開けば直に國際的であるとか世界的であるとか其の根本を究めずして表面に動く事象にのみ眩惑し而して世界の大勢なる語句を濫用し筆すら（九月一日稿）

（未完）

## 磐城病院改稱

## 市原病院

平町田町（電話一一四番）

內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋毒　市原三三男

## 良品廉賣に勝る商略なし

## 磐城平町五丁目

磐城セメント株式會社特約代理店

## 和洋銅鐵金物問屋 ㋭ 釜屋商店

諸橋久太郎

電話九一番　一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番

## 確實敏捷は㋭の生命なり

## 診療開始

外科
花柳病科　專門　木村外科醫院

平町六丁目橋際（元〇久村木店跡）
電話三〇九番

入院自炊ノ便アリ

## 新築落成

▽設備完全心地よき客室
▽宴會に便宜な大廣間
木の香も新らしく
通風採光の佳良

磐城小名濱町橫町
御料理旅館 龜屋

電話一二番

婦人世界特選
舞姫模様銘仙 新柄取揃
九月二十二日ヨリ 陳列即賣

## 三井呉服店

小生儀　先般病氣に罹り其の後靜養の必要を認め一時歸鄉罷在候處爾來幸に經過良好全く舊に復し候に付此度歸平の上左記に事務所を定め從前の通り一般訴訟事務を取扱候間倍舊の御高顧を垂れられ度此段謹告仕候

昭和三年九月廿三日

平町字田町十九番地
辯護士 漆畑元吉
（末廣の向側）
電話一〇八番

平町田町

## 高久病院

電話五一三番

醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
醫學士 佐竹菊雄

內科 小兒科
外科 花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

## 生花教授

池ノ坊流　生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出でなさい。

平町五丁目（釜屋橫町）

須藤なつの

## 幕末秘話 狂怒の心

談 渡邊默禪作
（48） 宮野歌春畝

梅に睨み返されて、たゝたゝと後方に退つた近藤勇はツと我に返つて再び風にうつ荒驚、蕭然として路々顧したその殺那である、前面の桑戸を慌しく開放つし、斯く呼ばゝれた方面に研究慾だけなる人物が雲がくれと同時に現前の社會相が如何に矛盾撞着せるかを判明し加へてユダヤ民族の研究の如何に必須の問題なるかを自覺する事を確言して此の稿を擱筆すら（九月一日稿）

（未完）

## 赤心堂病院

平町田町
電話四七五番

## 御大典記念景品附特賣

## コサック萬年筆記念名入

也圓貳金價特號壹
一也錢十四圓貳金價特號貳
也錢十八圓貳金價特號參

## 其他各種

磐城平町

## 高倉天地堂

三百本一組景品ノ內容

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 壹等 | 十八金厚側西瑞製拾石入アンクル十形腕卷時計 | 三個 | 特賣 | 自昭和三年九月一日滿二ケ期間昭和三年拾月卅一日 |
| 貳等 | クローム側拾形西瑞製十石入アンクル腕時計 | 五個 | 抽籤場所 | 公會堂 |
| 參等 | 最新式置時計 | 拾五個 | 抽籤方法 | 在平新聞記者立會嚴正施行ス |
| 四等 | 舶來二ツ折レシース | 三十五個 | 抽籤發表 | 御即位式當日當籤者各位ニ通知ス |
| 五等 | 弊店名入手拭 | 爰全部 | 景品引換 | 抽籤發表一ケ月以內トス |

本特賣抽籤ニハ全部空籤ナシ

## 初秋の御用意品案內

合着シヤツとして確かに皆樣より歡迎を受けるスムースシヤツは肌觸り滑かで實用的であります

並肘 一圓五十錢
大肘 一圓八十錢

綿ネルと本ネルのワイシヤツ

中折帽子 鳥打帽子
中山帽子 子供帽子

新柄種々陳列致しました

## ツルヤ商店

電話百圓十番

# 石城民政黨の不平組が 憲政一新會の旗揚げ

## 黨中共鳴者多數に上り 内憂益々深刻化す

石城民政黨の御家騷動は昨年九月の縣議選擧以來益々露骨に表面化し今や殆むど拾收し得ない醜狀を暴露するの餘儀なきに至つた、卯々御家騷動の根ざしは野崎滿藏氏と若松美三氏の相反目が昨年の縣議戰以來日を經るに伴れて深刻となり、黨中には

**野崎氏の** 牙城に立て籠つて若松氏の無氣力を嘲笑し折あらば同氏の失脚を覗ふものゝある一方、幹部長萩原義雄氏を初め硬骨の一部黨員等は民政黨の爲め何等の貢獻なく賢り込み式に幹部に納まり事毎に橫暴を振舞ふ野崎氏の態度に日頃こころよからず之れ等が一致して若松氏を擁護し茲に若松派、野崎派なる旗印が然かも民政黨公會 席上あきらかに分流し事毎に論爭の端を發し鐵拳や

**煙草盆が** 飛むだ廻る等は尋常茶飯事の吉例となつてゐる、民政黨機關紙新聞福島毎日の村上榮君が平支局に在任中旗亭末廣に於て野崎氏の經營する林家の抱藝妓某と惡い戯れをしたのが怪しからぬと林家への出入を禁せられ爾來村上君の抱く反野崎熱が若松氏に對する好意となり若松氏は民政黨倶樂部の樓上を村上君の爲め無償で解放してゐた處野崎派ではその

**不埒を責** めとう／＼村上君を倶樂部樓上より放逐し更らに平支局より驅逐して了つたなぞ若松派對野崎派の確執はケチな問題にまで絡まり其の內容の醜惡さに至つては心ある黨員をして顏をそむけしめてゐるが、眼中一の主義綱領もなく一二野心家の傀儡となつて噴火山上に亂舞する石城政黨に對し常に慊らざる志賀亥之松氏を初め少壯有力なる一派は

**民政黨中** 央本部の動亂を機會に石城憲政一新會を組織し既に民政黨脫黨說を傳へられてゐる比佐代議士並に某縣議とも了解の上這般來一新會組織に奔走中であつたが黨中多數の共鳴者を狩り集め近く發會の順序であるが內憂外患に呻吟する石城民政黨の今後は寧ろ興味を以て觀らるべき價値があるであらうと

## 修養講演會

いはらき社長講演

內鄕村青年團の修養講演會は三十日午前十時から內鄕小學校に於て開催いばらき新聞社長本多文雄氏の講演がある

# 湯本藝妓屋組合と旅館側の紛爭

## 箱止めも辭さぬと 問題は花の一割

湯本町藝妓屋組合と旅館料理店側 睨み合ひ――湯本藝妓ゝ組合では去る一日から實施となつた健康保險法案の實施に伴ひ健康診療所を設置すべく計劃を立てたが財源の捻出に惱むだ結果之れが援助方を旅館料理屋組合側に申込むだ、即ち

**同地に於** ける玉高は一本五十錢にして其の內旅館料理店側では十一錢五厘のハネを別に廣告費として七厘更らに花(付花)の二割を所得としてゐたものにして藝妓屋組合側では右お花の天引き二割を一割に引き下げ一割を組合側に引き戻して貰ひたいと申込むだところ旅館料料店側では之れを拒絕しその代りお花制度を全廢して玉一本六十錢に値上げをせよと主張して來たので問題は茲に紛ち上り兩者代表が

**屢々會商** したるも容易に一致せず二十一日夜再會を約して一時物分れとなつたが藝妓屋側では此の目的が通らねば斷然休業し箱止めをすると意氣込み一方旅館料理店側では何も湯本の藝妓許りが藝妓でないから箱止めをするなら平から藝妓を招ぶまでも讓らずと頑張り通してゐるので圓滿の手打をするまでには相當の曲折がある樣に見られてゐる

# 死んだ母の姿が娘の寫眞に寫る

## 平町の渡邊和平氏方で 嘘のような事實

元磐城炭礦營業課長たりし角地藤太郎氏の男某氏が「必靈寫眞の研究なる」著書を公にし科學的に解決し得ざる不可思議極まる幾多の事實を解き更らに會て大本教が人間ノ

**靈を寫眞に** 撮ることが出來たと放言した事があつたが全く信じ得べからざるこれ等の事が然かも今回平町に現はれた、この主人公は平町二丁目代書業渡邊和平氏の長女で現在東京市京橋區八官町五ノ洋服業武田金一郎(三二)氏の下に嫁いだ時子(二九)で去る大正十五年八月十四日實母きさ(五六)を失ひ實母の一周年に當る昭和二年八月十四日に自分の寫眞を素人寫眞に撮つて貰ひこれを京橋附近の至誠堂寫眞館で現象して貰つたところ死んだ

**母の左半** 身が時子と並んで雜朶つしたやうに寫つてゐたのである、この寫眞がこの頃時子から平町の實父の許に送られて來たので目下平町では信じやうとして信じ得られない事實に驚異の目を見張つてゐる、右について同家を訪れると當の渡邊氏は語る「信せられぬ事だが何とも不思議です、死に際して寫した妻さきの寫眞を佛壇から取り出して見たが問題の寫眞はぼけてゐるが顏や姿はそつくりです武田夫婦は日蓮信者で、今年は母の三年忌なので墓詣に來てそれを見せられ吃驚しました、尙これを現像した至誠堂では不思議な現板を廣く紹介すべく研究中なさうです

郡下少年庭球

# 出場選手

| | 後衛 | 前衛 | 後衛 | 前衛 |
|---|---|---|---|---|
| 澤渡校 | 平山盛字 | 水野岩男 | 佐藤松意 | 中島勇馬 |
| 小川校 | 柳內五郎 | 坂本四一 | 鈴木五郎 | 大平喜三 |
| 好間校 | 高萩久利 | 木田英夫 | 深谷喜一 | 大沼廣秋 |
| 平第一校 | 佐藤致中 | 小野村宏 | 伊藤勇 | 佐藤政雄 |
| 磐崎第二校 | 上田大實 | 菅德彥 | 淡輪正雄 | 坂田哲郎 |
| 赤井第二校 | 吉田不二雄 | 桑谷正己 | 猪野丹治 | 川隅英範 |

# 列車脫走犯人遂に捕はる

## 巧妙な野菜賣りに變裝し ◆――山を拔けて小名濱を徘徊中

去る十八日夜小川赤井間を進行中の列車から飛降り逃走した稀代の脫走犯人山內直次(三九)の行方に就いては平署が殆んど不眠不休全力を擧げてゐる旨既報したが突如有力な手掛りを得たものか捜査に從事中の入山第四坑請願佐藤覺太郎、磐城炭礦綴坑請願佐藤正之助兩巡査は廿二日未明から小名濱方面に出動したが今廿二日正午に至り小名濱町字明神下通りを天秤棒を昇ぎ野菜行商に變裝してゐた脫走犯人直次を發見大格鬪の末遂に逮捕高手小手に縛り上げ自動車に依つて本署に護送し來たり猪狩署長自ら嚴重な取調を開始した結果逐一脫走後今日ノ至るまでノ經過一切を自白し此處に脫走後四日間平署が死力を盡した甲斐あつて一度逃がした呑舟の魚を捕獲する事が出來た

## 犯人直次の自白

犯人直次の自白した處に依ると列車から飛降りた際前額部と脚部に負傷したが森刑事が追跡して來るので苦痛を勘えて山中に姿をかくしたが雨のため衣類はビッショリと濡れたので眞裸体となつて赤井村の氏名不詳方を襲ひ縞の半纏紺のモモ引き、麥稈帽、ゴム靴を盜み身に付けたが平署の搜査が嚴重になるのを豫想地理の明いのを幸ひ山傳ひに逃走せんと十九日夜まで同村山中に潛伏同夜中から山傳ひに好間內郷等を經て綴附近の某家から天秤棒、荷籠を盜み野菜行商に變裝小名濱に至り逮捕されたのであると言ふが犯人直次は一見小兒の如き小軀でありながら「今夜あたりは小名濱で大仕事をした上高飛する筈だつた」と豪語してゐる

# 社寺を探りて(八)

## 石城　夏井　專稱　如來寺

△專稱寺

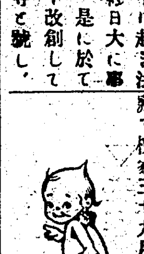
夏井村大字山崎にあり平町を距る東方一里許り、京都智恩院の末寺にして淨土宗梅福山と號す、應永二年良就證賢上人の創立に係り、六代良大仰觀上人の時延德二年六月後土御門天皇の勅願所となりて奧州總本山の名を賜はる、幕政の時寺領七十石を有す、境外山林四町六段餘境內凡そ二千八百坪郡內屈指の名刹にして結構莊麗規摸の宏大なることは殆ど人目を驚かすばかりなり、本堂間口十二間奧行十間、向拜付庫裡開山經藏鐘樓堂ありて本堂には慈覺大師作の阿彌陀如來を安置す、境地は高さ百尺許りの丘阜にして、東に參路を設け途中唐門あり山門の右側にある古松を鶴龍松と稱す東は水田遠く海濱に連り西には平田の人畑を近く目睫の間に望み景致稍々快豁なり、又當寺は頗る什寶に富みたりしが寬文九年回祿ノ災に罹りて鳥有に歸し一も殘るなし當山末寺所末寺三十三箇寺遠末百三箇寺にして檀家六千戶、財產山林五町步田一町三反步を有す

△如來寺

松峯山と號し夏井村大字山崎字矢目にあり、奧州淨土宗最初の本山と稱せらる、即ち名越善導上人の法孫良山が元亨二年に開きし道場なり、一說に良山は山崎矢目、荒田目等の領主大江氏の歸依する所となりて之が始め彼の專稱寺も如來寺の末裔なりしが、幕名の時廿石寺田を有したれど、彼の專稱寺に總本山及び檀林を讓り復た競ふ所なり、當時緣起に本寺は淨土宗名越派四本山の一にして嘉元二年相州鎌倉光明寺開山記主禪寺の法弟なる藤氏の息女眞戒比丘尼本尊善光寺如來を同時に膨刻せしめ、攜へて此山崎村松峯の麓に來り草庵を結びて住することゝ廿九年其の靈驗著しきを以て賽人陸續絕わず、元亨二年良山上人を以て開山とし、一字を草創して松峯山眞戒院と號すとあり、境內凡そ一千八百坪中央に本堂開山堂藥師堂役寮庫裡等あり、正面に樓門あり什寶には彌陀大漫荼羅月形𨨞一合山上人の選述三十餘卷あり、境內は海濱を距ゝ廿町許りにして東は松林の梢を隔てゝ外洋の渺々たるを望み夏井川の清流は近く脚下に橫り風光頗る秀麗なり、檀家五十戶、財產田一町一反一畝五步畑四反十一步山林原野六町五反六畝十四步を有す

△龍門寺

禪勝山と號し飯野村大字下荒川にあり、曹洞宗大本山總持寺の末寺にして大源一派の小本寺たり、幕政の時寺領七十石を有せり、緣起を按ずるに開山靑頓珠鷹禪師應永十六年來つて龍ヶ澤に庵す、一日托鉢の途上驟雨の至るに逢ひ之を路傍の草堂に避く、時の郡主磐城平朝出で、山野に遊獵し亦雨を彼堂に避く、因つて相識ることを得たり翌日平朝の請に應じて城中に赴き法義を談ずること終日大に平朝の歸依を博す、是に於て即日龍ヶ崎の庵を改創して之を禪勝山龍門寺と號し、禪師をして之に居らしめ請ふて翌年春に至り大工を起して更に方丈齋堂寺を經始す、秋八月に至り修造方に半にして平朝逝く、因て其嗣胤繼之を竣工すといふ、爾來累世磐城氏、番花院たるを以て其の移封の際に及べり、故に境內に朝繼以下十一世の塋域を存し且つ其の靈廟に如上の靈碑を安置せり寶物としては開山遺物たる糯米の袈裟水晶の念珠肉附の拂子及龍爪と稱するもの及び數通の古文書を藏す檀家三十九戶あり



## 植田組頭會

石城郡植田警察署管內消防組頭會議は來る二十三日同署內に開催消防協會基本金造成件に付き協議する由

# 平町に信用 出帳所增設

## 補助交附申請

本縣信用組合聯合會では所屬組合の便宜を計る爲本年六月から若松市並に相馬郡原町の二箇所に出張所を設置した處非常に喜ばれたので明年度には更に縣南方部(多分白河町)及び平町の二箇所に聯合會出張所を增設することになり二十一日古川聯合會長から加勢知事に相當縣補助の交附方申請した

# カフエーから金庫を盜む

## 圖太い犯人

平町驛前カフエーステージ事高橋定次方に十九日午前二時頃二名の怪漢忍び込み現金三十餘圓、價格百圓の金側懷中時計一個入りの手提金庫を窃取した上悠々と夕食を喰らひビール及葡萄酒を飲み逃走した事判明し平署に急報したので同署では犯人嚴探中であるが右手提金庫は平町新川町鈴木自動車庫前に遺棄してあつたのを見出したが勝手を知つた者らしく列車逃走犯人で町內の警戒手薄を見て忍び込んだものでそのやり方は圖々しいものである

# 職業校になる 藤田女學校

## 組織變更出願

平町藤田女學校は從來知事の認可する小學校に類する各種學校として經營して來たものであるが、今回內容を整備し職業學校規定により職業學校としたいから認可して貰ひたいと組織變更の願ひを出したので縣では調査の上廿日關係書類を本省に進達した

## 濱通りの共濟委員

事業の打合せ

本縣共濟委員會濱通り委員會は昨廿一日午前十一時から舊石城郡役所に於いて開催各方部の農業經過の報告及今後の事業打合せ等あり午後三時散會した

# 愈々明日に迫る少年庭球大會

## 各軍とも猛練習に 榮冠何れの手に

秋の磐陽スポーツ界を彩る本社主催郡下少年庭球第七回大會は既報の如く白熱的人氣を呼んで愈々廿三日午前九時を期し舊平商業校々庭の平クラブコートに於いて華々しい戰の幕を切つて落される事になつたが此れより先一度本社が大會期日を發表するや前後四ケ年惜敗の苦楚を嘗めてゐた平軍四ケ年連勝の榮冠を有する好間軍此の大敵を相手に雄々しい健鬪を續け來たつた赤井、小川の兩軍何れも榮ある大優勝旗を目差して待つてゐただけに俄然緊張の度を加へ必勝の意氣物凄く猛練習を開始し目下の處では實力全く伯仲の間にあつて何人も結果の豫想を許さないが更らに新加入の澤渡、磐崎兩校の如きは其の實力計り知れざるものがあり老巧な前記四校に對しての奮鬪はけだし大會中の見物であらうと言はれ初陣の兩軍に對する前人氣は索晴しいものがある好間軍五度連勝の榮を得るか平軍多年の宿敵を屠つて快勝するか小川、赤井の健鬪好く強敵を一蹴するか新參加の澤渡磐崎の兩軍の奇襲奏効するか愈々大會は明日に迫つた

## 澤渡少年軍 本日來平

青年團の後援

本社主催第七回少年庭球大會に出場する澤渡校選手四名外補欠二名は二名の先生に率ゐられて今廿二日午前來平直ちに舊平商コートにて輕るい練習を試みたが同村では必勝を期する爲め同村青年團が主体となつて一大後援團を組織し大會當日は全力を擧げて應援する事になつた

# 今秋平町に開く 聯合農產品進會

## 併せて神谷分場にも 出品一千に及ぶ

今秋御大典の奉祝と神谷農試分場創設滿五週年祝賀を兼ねて同分場及石城郡農會が聯合主催の下に來る十一月廿三日から廿六日まで平町及神谷分場內に郡上農產物の一大共進會を開催する事ノ決定した旨既報の如くであるが此の

**御大典記** 念事業が一度地方に發表されて以來地元たる平町、神谷村等は勿論郡下農村の力瘤は非常なもので殊に郡農會當局が本郡下をして農村の理想郷東北のデンマークを建設すべく着々步を進めてゐた結果最近郡下農村の向上振りは驚くべき程で農村の自覺に伴ひ此の

**大共進會** を轉機とし更らに一大飛躍を試みんと各町村農會ゝ激勵しつゝゐるが此の大共進會に出品決定した町村數量は大体次の數くで殆んど當地方空前の大共進會にあるは勿論縣下に於ても稀有に屬するもので各方面から開場當日を待たれてゐる而して決定した出品は

**各種果樹** は赤井五十點、最高に好間、大野、平窪の各三十以下等で三百九十三點、秋作蔬菜は神谷村の百廿點を最高に飯野村、平窪、好間村の各八十點、草野村內郷村の各七十點夏井小名、磐崎、大浦の各五十點等以下一千八十八點△花類の百九點、果樹苗木の三十五點△園藝加工品の百十七點等 主農產物を始め近來非常な勢で地方に普及してゐる

# 社告

塙 操

右入社ス

磐城新聞社

第七回郡下少年庭球大會 會期いよ／＼迫る

日時 九月二十三日(日曜)

場所 舊平商業學校々庭

▽優勝旗爭奪戰

會長 唐土齊治　副會長 蓮沼龍輔
顧問 木村寅三　顧問 吉田利吉
委員 鈴木武雄　委員 大坪光夫
同 篠塚平八郎　同 猪狩四郎
同 高木直治　同 吉田常雄
同 根本武雄　同 田村參也

主催 磐城新聞社

後援 平庭球俱樂部